

第68次 教育研究福井県集会

テーマ「響心」

～響かせよう心に、響き合おう心で～

総括報告

第68次教育研究福井県集会が11月10日(土)、ハートピア春江と春江中学校を会場として開催されました。組合員、保護者、退職組合員等、約600名が県内各地より参加しました。

全体会では、県教組室田浩和執行委員長の挨拶の後、あわら市教育委員会大代紀夫教育長より激励の言葉をいただきました。その後の講演会では「内田麟太郎」さんが「わたしの絵本」をテーマに、絵詞作家になった経緯や絵本作りの様子についてのお話をされました。内田さんの人柄があふれる楽しいお話であつという間の90分間でした。

午後は、専門性豊かな講師の方々による、ワークショップを中心とした参加型の11の分科会が開催され、教職員としての資質向上を図りました。



編集・発行所
福井県教職員組合
福井市大手2丁目22-28
TEL 23-1887
郵便番号 910-8544
定価70円(郵送料共)
毎購送料(含組合費)

大和印刷所

第68次 教研特集 (全組合員配布)



委員長挨拶

「AI」よりも「アイ」

人工知能と呼ばれる「AI」。最近よく耳にする言葉です。先日の新聞に東京の公立中学校の取組が掲載されておりました。「生徒たちは手元のタブレット端末をのぞき込んでいた。画面に問題が表れると、タッチペンで解答、解説を見て理解を深める。教師は生徒のサポート役に徹し、黒板も教科書も使わない。人工知能「AI」が生徒の理解度に合わせて練習問題を出し、家庭学習でも使う。この中学校はかつて受験勉強を重視する進学校だったが、今では定期試験や宿題がない。AIを駆使した教材で効率的に知識を覚え、余った時間は、企業や専門家など外部の力を活用し、自主性や創造性を育む活動に充てる。教育の「オープンイノベーション」だ」と。

また、とある町工場の記事も掲載されておりました。その町工場に、人はまばらだった。関節をもった6台のロボットがせわしなく動き、ガラスをそととつかむとゆっくり運んでくれる。工具は微妙な削りを入れるだけ。出番は減った」と書かれておりました。その記事には「新たな分業 AI浸透、変わるカイシャ」とい

う小見出しのもと、ヒトとAIの分業の仕組みを作れるかが、これからの生産性向上と成長の鍵になりつつある、とも書かれておりました。

現在は生産性や効率性が求められる時代であり、そういった意味で自然な流れなのだろうと思いつつ、決してAIを否定するわけではありませんが、読みながら一抹のさみしさを感じました。

AIはローマ字読みで「アイ」と読めます。AIをアイとして教育に当てはめます。「私たちを含め、子どもたちは、成長の過程で多くの人に出会う中、人とつながり、協力し合いながら生活しています。決して一人ではなく、困ったときには誰かが助けてくれる。また、困っている人がいれば、何か手助けできないだろうか」と考える。助け合いの心です。そう考えるとなんととも言えない安心感を覚えます。

めまぐるしく変化する21世紀において、これからの子どもたちに必要な力は、グローバル化に対応できる力、情報処理の能力、他者と協働する力などと言われています。まさに、AIとAIのベストミックスが必要になってきたとも言えます。

ビジネスの世界と違って、教育の時の流れは長く緩やかです。だからこそ、過去と現在を確実にふまえ、子どもたちの姿を出発点に、一歩ずつ地に足をつけてじっくりと教育を構築しなければならぬと考えます。

本集会では、子ども達の将来のために、あるべき教育の姿について、参加者の皆様に語り、AI、テーマのごとく「心が響きAI」の場となることを願っております。